

岐阜市
超短時間ワーク
応援センター

応援センター開設までの経緯

令和3年5月 岐阜市と東京大学先端科学技術研究センターが共同研究契約

「超短時間雇用創出プロジェクト」開催

プロジェクト会議 令和3年度5回開催

構成員：先端研、就労関係事業所、中小企業家同友会、ハローワーク、
岐阜県労働雇用課、および岐阜市庁内担当課

主な検討内容

- ①令和4年度超短時間雇用創出事業に向けた岐阜市モデルの構築
- ②モデルケースの創出

令和4年度 超短時間雇用創出事業

4月1日 岐阜市超短時間ワーク応援センター開設

(社会福祉法人舟伏 事業委託)

所在地 岐阜市学園町2丁目33番地
(岐阜県障がい者総合就労支援センター 内)

開所時間 平日月～金、8：30～17：00

電話番号 058-215-8280

FAX 058-215-8281

スタッフ センター長、支援員2名

応援センターの機能 1 企業への支援

理念共有

- 協力企業の開拓
- 「超短時間雇用」についての共通認識

職務定義

- 仕事内容を決める
- 労働条件を相談

マッチング

- 職場見学・体験の実施
- 求人を出す際へのフォロー

雇用継続

- 雇用後の環境調整

応援センターの機能 2

求職者への就職支援

対象者（令和4年度事業開始時）

- 岐阜市在住の方
- 障がい者やその疑いがある人で、障がい福祉サービスの就労系サービスを利用していない人
- 難病の人
- 生活困窮者で、岐阜市生活・就労サポートセンターを利用し対象と判断された人

応援センターの機能 2

職者への就職支援

相談

登録

- 事業の説明
- 希望者は、ワーカー登録

マッチ
ング

- 職場見学
- 職場体験

応募

- ハローワーク登録のサポート
- 面接同行

雇用継
続

- 雇用後の環境調整

応援センターの機能 3

広報・啓発

- ・ 岐阜市広報掲載（4月1日号）
- ・ ラジオ放送 FMワッチ（7月3日）
- ・ 超短時間雇用創出事業シンポジウムの開催（7月11日） e t c ...

プロジェクト会議開催

- ・ 実装開始後の事業内容について、体制整備や対象者の検討を行う

東大先端研と岐阜市との定期ミーティング

- ・ ケース検討などを通じ、先端研からのスーパーバイズを受け、ノウハウやスキルの構築を目指す

メディアでも取り上げて頂きました

令和4年4月2日	毎日新聞 掲載
令和4年4月2日	岐阜新聞 掲載
令和4年4月21日	中日新聞 掲載
令和4年5月19日	NHK 「まるっとぎふ！」内 放送 ▽ぎふリポ「“少しでも働きたい”～誰もが働きやすいまちへ」
令和4年5月20日	朝日新聞社・朝日新聞デジタル 掲載

応援センター活動実績 (令和4年6月末まで)

企業アプローチ

- 問い合わせ、事業説明 27社
- 職務定義、仕事の切り出し 3社
- 職場体験 1社
- 雇用、定着支援 3社

(設計事務所の事務作業、高齢者施設の洗濯、小売業でのWeb作業)

応援センター活動実績 (令和4年6月末まで)

求職者対応

- 相談・お問い合わせ件数 54名
(のべ99件)

- ワーカー登録者 19名

うち手帳等取得者 精神10名、身体3名、療育1名、
難病4名

- 就労者 3名

応援センターとして活動して

求職者の相談傾向

- 難病を持つご本人、支援関係者からの相談
- 高齢の方の相談
- 在宅就労のニーズ
 - 他の支援機関等との連携で一体的に雇用をサポート

企業アプローチ

- 仕事の切り出しをどう行うのか？悩む企業側の声
 - 「障がい者を雇うためには？」ではなく、会社の中でどのような仕事を頼めると会社として助かるのか、よりよくなるのか

最後に

6月より仕事を始めた超短ワーカーさんからのコメント

→誰もが働きやすい職場・地域を作るお手伝いをしたい。職場の中の課題を解決し、働きづらさを抱えている方の働きたいを実現する一つの方法が「超短時間雇用」であると感じている。

ご清聴ありがとうございました